

産地パワーアップ事業の取組事例

(平成30年度:計画作成主体:洲本市地域農業活性化協議会)(兵庫県)

取組の概要

取組の概要 : 集出荷施設再編による生産効率化
計画作成主体 : 洲本市地域農業活性化協議会
対象品目 : たまねぎ(産地面積:64ha)
取組主体 : 淡路日の出農業協同組合
成果目標 : 集出荷コストの10%以上削減
助成金の活用 : 整備事業(集出荷貯蔵施設)



(選果の様子)

推進体制

○関係団体による 一体的な事業推進

・洲本農林水産振興事務所
・南淡路農業改良普及センター
・洲本市

指導・助言

情報共有

洲本市地域農業活性化協議会
・産地計画の策定・管理
・取組計画への助言

淡路日の出農業協同組合
・取組計画の作成
・取組実施等

地域における独自の取組

○光センサー選別を出荷用段ボールに印字し、品質の信頼性をPRし販売額の増大に取り組んでいる。
○早生品種(七宝早生7号)を期間限定「淡の春」と商品化し、作付及び取扱量拡大に取り組んでいる。
○淡路島たまねぎ栽培マニュアルを作成し、病虫害防除徹底による高品質安定生産に取り組んでいる。
○県民局の支援事業を活用して収穫用鉄コンテナを追加導入するなど、機械化一貫体系による労力削減を推進している。

ポイント

【産地の課題及び取組方向】

産地の主力農産物である「淡路島たまねぎ」は、H22年に地域団体商標を取得する等ブランド力を活かして京阪神地域を中心に年間約4,000tを供給しているが、高齢化や後継者不足により栽培面積が減少傾向にある。

このため、生産や出荷にかかる作業の機械化や共同化を進めるとともに、生産者所得を確保するため、ブランド力向上による高付加価値化と生産・出荷コストの低減を図る。

【産地の体質強化に向けた方策】

- ①収穫作業の機械化のための収穫用鉄コンテナの導入
- ②出荷調製作業(根切り葉切り)をJAで一括で行うための選果施設の整備
- ③集出荷コスト削減のための集出荷場の再編整備
- ④さらなる品質向上のための非破壊検査機の導入



(鉄コンテナによる荷受け)

取組成果

【事業実施による直接効果】

- ①収穫用鉄コンテナの導入及び出荷調製作業の共同化による生産者の労力削減効果
- ②集出荷機能の強化による産地としての集出荷コスト削減効果

【事業実施による間接効果】

- ①生産者の労力が軽減されることにより、中生品種から早生品種へ転換ができ労力の分散や作付面積及び取扱量が拡大
- ②非破壊選別機等の導入により品質が向上し、販売額が増加

